

9月の月間目標



じぶんのことはじぶんでしよう!



～身の回りの整理整頓など、自分でしようとする気持ちを大切に、自立心を育みましょう～

子どもが「自分でやりたい!」と思う気持ちは、2、3歳頃に芽生えてきます。この時期の子どもは、今まで大人にしてもらってきた身の回りのことに少しずつ挑戦しようとしています。このことが子どもの「自立心」の芽生えとなります。この時期、大人は一步下がって見守り、うまくできなくても自分でできたという達成感や満足感を十分に味わわせることで、子どもはやればできるという気持ちを育みます。

身の回りのことを自分でできることは、「身辺的な自立」を促します。幼児期に芽生えた自立心を、児童期、思春期と、周りの大人は子どもの成長に合わせて大切に育みましょう。

幼児期の子どもなら

- ・服を自分で着たり、脱いだ服をたたんだりしてみよう!
- ・遊んだおもちゃや、読んだ絵本などは自分で片付けよう!
- ・食べた後の食器は、自分で流しまで運ぼう!



自分でできること考えてみよう!

児童期の子どもなら

- ・朝は自分で起きよう!
- ・学校へ行く準備は、自分でしよう!
- ・自分の身の回りは、自分で整理整頓しよう!
- ・お手伝いをしよう!



思春期の子どもなら

- ・スケジュールを自分で管理しよう!
- ・おこづかいやスマートフォンなどの使い方を家族と相談して決めよう!
- ・家族の一員として、家での自分の仕事をもとう!



初めは大人が手伝いましょう。できたことは褒めて、達成感を味わわせましょう。



大人が先に手を出さず、子どもが自分で考えてしようとしていることを見守り、必要な時は手を貸しましょう。



自分のことはできるだけ自分で判断させるようにしますが、大人は見守りながら、時に必要なアドバイスをしましょう。

家庭において「自分のことを自分でする。」「家族の一員として自分の役割をもち、責任をもってその役割を果たす。」ことは、子どもが将来社会に出た時に、社会の中で役割や責任を果たすことの基礎をつくることになります。

子どもが小さい時は、自分のことがなかなかうまくできず、大人は、子どものために先回りして世話を焼いてしまいがちです。でも、子どもが自分で考え、判断し、行動できるようになるために、子どもの成長に合わせて、徐々に口出しや手出しを減らしていきましょう。「身辺的な自立」は、「精神的な自立」に、そして将来の「経済的な自立」へとつながっていきます。

大人は、小さな成功と失敗を繰り返しながら成長していく子どもの姿を、少しずつ距離をとりながら、でも決して気持ちは離すことなく、見守っていききたいものです。



毎月第3日曜日は「家庭教育・家庭の日
(いきいきサテーン)」です

奈良県立教育研究所
(令和2年9月発行)

家庭教育
Web ページ

